

2013年度 早稲田大学大学院法務研究科
法学既修者試験 論述試験
刑 法
(問 題)

問題1 (60点)

不良グループのリーダーである甲は、日頃から対立していた別の不良グループ（以下、「敵グループ」という。）のリーダーである乙を襲撃することを企て、「乙を襲って痛い目にあわせろ」と子分のAに指示した。本件当日、午前2時頃に、Aは木刀を携え、敵グループが夜によく集まっている公園に出向いたが、そのとき乙は公園におらず、敵グループの副リーダーである丙がいるだけで、公園内に他に人気はなかった。乙と丙は、「甲らのグループが必ず襲ってくるだろうから、襲撃されたらその機会に甲らを痛い目にあわせてやろう」と事前に話し合っており、その際に乙は、甲らの襲撃に備える武器として丙にナイフを渡していた。丙は本件当日もそのナイフを携帯していた。

公園内に入ったAは、丙の姿を見つけるやいなや木刀で殴りかかったため、不意をつかれた丙はその場に転倒し、転げ回りながらAの攻撃を回避していたが、そのうちAは勢い余って足を滑らせ、前のめりに倒れかかった。そこで丙は、そのすきにナイフを取り出し、木刀を持ったAの腕に切りつけるつもりでナイフを突き出したところ、Aが体の向きを変えたのでナイフはその腹部に刺さった。丙は、Aが腹部から出血しているのを目にして、このままではAが死亡するかもしれないと思い、怖くなって公園から逃走した。丙が逃走した直後、乙が公園にやって来て、Aが倒れているのを発見し、丙がやったものと察知した。その時点で乙が救急車を呼ぶなどしていれば、Aの救命はほぼ確実に可能であったが、乙はAがそのまま死んでもかまわないと思い、放置して立ち去ったため、Aは数時間後に死亡するに至った。

甲、乙、丙の罪責を論じなさい（特別法違反の罪は除く）。

問題2 (30点)

名誉毀損罪において、被告人が、表現内容が真実であると誤信していた場合の罪責について論じなさい。

〔以下余白〕